

令和6年度

佐賀県小・中学校学習状況調査

— 調査結果 と 指導改善のポイント —

中学校英語科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と生徒のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
 - ・ 授業アイディア例
- 5 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和6年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

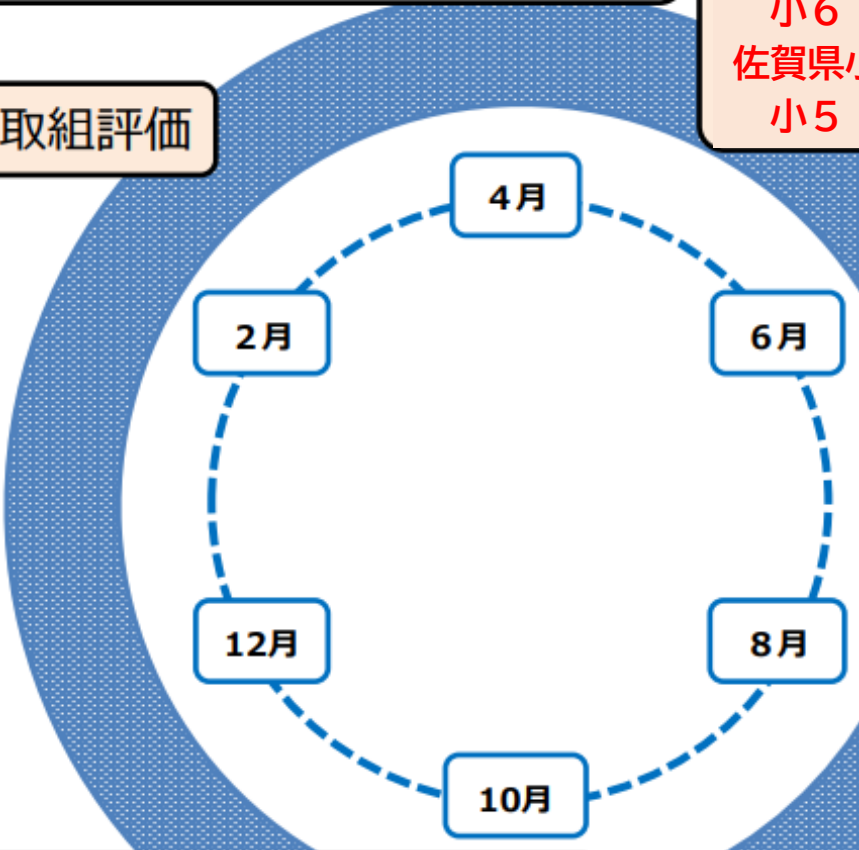
検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和6年4月18日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



・問題分析

・結果分析

・取組の検討

○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

中2英語

年度	目標値	県平均正答率
R 6	51.7 %	46.5 %
R 5	50.3 %	40.7 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-5.2

-9.6

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R6の県平均正答率は、目標値を5.2ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

知識・技能

中2英語

年度	目標値	県平均正答率
R 6	57.2 %	53.7 %
R 5	56.3 %	47.9 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－3.5

－8.4

R6の県平均正答率は、目標値を3.5ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

中2英語

思考・判断・表現

年度	目標値	県平均正答率
R 6	45.0 %	37.8 %
R 5	41.2 %	29.6 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-7.2

-11.6

R6の県平均正答率は、目標値を7.2ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

「聞くこと」

中2英語

年度	目標値	県平均正答率
R 6	62.2 %	59.6 %
R 5	60.6 %	50.8 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-2.6

-9.8

R6の県平均正答率は、目標値を2.6ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

「読むこと」

中2英語

年度	目標値	県平均正答率
R 6	56.8 %	52.0 %
R 5	53.2 %	44.7 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－4.8

－8.5

R6の県平均正答率は、目標値を4.8ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

「書くこと」

中2英語

年度	目標値	県平均正答率
R 6	35.0 %	26.8 %
R 5	37.0 %	26.1 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-8.2

-10.9

R6の県平均正答率は、目標値を8.2ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

第2学年では、令和5年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率（「知識・技能」「思考・判断・表現」）
- 領域別の県平均正答率（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）

3 成果が見られた設問

- ◇ 日常的な話題について聞き、必要な情報を把握することができる。
- ◇ 対話文を読み、文構造や文法事項を理解することができる。
(3人称単数現在の動詞の形)
- ◇ 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制のbe動詞の肯定文を正確に書くことができる。

4 課題が見られた設問

- ◆ メールを読み、その要点を捉えることができる。
- ◆ 週末することについて、まとまった内容で紹介する英文を、相手に伝わるように書くことができる。

〈R5県調査及び全国調査で見られた共通の課題〉

- ◆ 基本的な語や文法事項等を理解して正確に書くことができる。

指導改善のポイント

まとまりのある文章を読み、その要点を捉えることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 文章全体を漫然と読ませるのではなく、繰り返し用いられている語（句）や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や英文を選ぶ言語活動を設定する。
- 複数の段落からなる文章を読む際は、各段落の主な内容を捉えたり要点を表す英文を選んだりして、それらを比較・検討し、文章全体の要点は何かを判断する言語活動を設定する。

4 課題が見られた設問

授業アイディア例

※メール文を題材として授業をする場合

「まとまりのある文章を読み、その要点を捉える力」を育成するための学習過程

1. 文章を読む目的を把握する



2. 文章を読み、各段落の主な内容を捉える



3. 段落間の関係を把握する



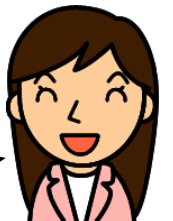
4. 3を踏まえて、文章全体で書き手が最も伝えたいことを捉える



5. 学んだことを活用し、別の文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉える

一文ずつ解説しながら全体の理解につなげるボトムアップの読み方ではなく、文章全体を読んで、大切な部分を捉える読み方を指導することが大切です。

また、教え込むのではなく、生徒の気づきを引き出しながら指導するようにしましょう。



授業アイディア例

1. 文章を読む目的を把握する



2. 文章を読み、各段落の主な内容を捉える

□「読む目的に応じた読み方ができるようにする」指導の工夫

読む目的に応じた読みを行う場面の設定

(1) 文章を読む目的（要点を捉える）を確認する。

Emily sent a mail to her sister Judy. This is the text of the mail. Let's read it and catch what Emily wants to tell the most in her mail.



教師

(2) 「要点を捉える読み方」を確認する。

You learned how to catch the main idea of a passage in Lesson 2. Do you remember?



そうだ！Lesson2で勉強したな。



書き手が伝えたいことを予想してから読みました。



文章の中で大切だと思う単語や文に線を引きながら読みました。

That's right. Now, let's read the mail. When you read it, find the keyword in each paragraph, and underline it. Or you can take notes.



(3) (2) を踏まえて、各自のペースでメール文を読み、各段落の主な内容をつかむ（個人）。

「読むこと」においては、読む目的に応じた読み方を指導することが大切です。読み取りの視点を示すことで、生徒は目的に応じた読み方を踏まえて、文章の要点を捉えることができます。



POINT

- ・ただ文章を読ませるのではなく、読む目的に応じた読み方ができるようにします。
- ・教師が誘導するのではなく、各自の判断で大切な語句や英文を選ぶことができるようにします。

授業アイデア例

3. 段落間の関係を把握する

4. 3を踏まえて、文章全体で書き手が最も伝えたいことを捉える

□「意見交換をしながら、文章の要点を検討することができるようにする」指導の工夫

文章全体で書き手が最も伝えたいことについて意見交換をする場面の設定

(1) 各段落の主な内容を比較しながら、段落間の関係を把握し、書き手が最も伝えたいことを捉える（グループ）。

(2) 各グループの意見をクラス全体に共有し、更に検討する（クラス全体）。

1st paragraph: my host family
2nd paragraph: breakfast
3rd paragraph: lunch at the park
4th paragraph: fine in Japan

Have you found the keyword of each paragraph?



教師



I have a question. I think "my life in Japan" is the keyword of the 1st paragraph.



I think "my life in Japan" is the keyword of whole mail.



I think so too. "my host family"や"breakfast"、"lunch at the park"は、エミリーの日本での生活の具体例として挙げられていると思います。



I think "my life in Japan" is the keyword of whole mail too. このキーワードが含まれている"I like my life in Japan."と、最後の4段落の"I'm fine in Japan"という文から、エミリーは「日本での生活を楽しんでいる」ということをジュディに最も伝えたいのではないかと思います。

That's right. So, the 1st sentence in the 1st and 4th paragraph introduce the main point of this mail.



各段落の最も伝えたいことを表す語句や英文を捉え、それらを比較するなどして、書き手が最も伝えたいことについて意見交換をします。その際、生徒とやり取りを行いながら最も伝えたい部分を読み取る方法を指導することが大切です。



〈最も伝えたい部分を読み取る方法の説明例〉

- One paragraph has one main idea or one important point.
- The most important points of a passage are often written in the first paragraph and in the last conclusion section as well.

POINT

段落と段落の関係をワークシートなどに図示させて段落間の関係を捉えることも効果的です。

指導改善のポイント

まとまりのある文章を書くことができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- テーマについて事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながら書くことができるように指導する。
- テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解して文章を書くことができるように指導する。

4 課題が見られた設問

授業アイデア例

※「週末の過ごし方」をテーマとした文章を書く言語活動を行う授業をする場合

「まとまりのある文章を書く力」を育成するための学習過程

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しをもつ



2. 情報を収集し、整理する



3. 内容と構成の検討を行い、表現する

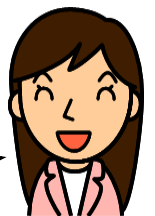


4. 内容と構成を再構築し、表現を改善する



5. 学んだことを言語活動で再び活用し、学習を振り返る

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、学習過程の3から4にかけて、言語活動と指導を繰り返しながら、表現内容の適切さと英語使用の正確さを高めていくことが大切です。



授業アイデア例

2. 情報を収集し、整理する

□「テーマについて書く内容を想起できるようにする」指導の工夫

エイミーにインタビューし、情報を収集する場面の設定



エイミー



教師




I want to enjoy my weekends, but I don't have any good ideas. Do you have any good ideas?
What do you do on weekends?

Why don't you ask Amy some questions to give good ideas, class?

I like sports.

Yes. I also like to play it.

OK. Amy, what are your hobbies?

Oh, you like sports. Nice. Do you often see soccer games?

I see. You like to see soccer games and play it. Thank you.



S1




自分の考えを書く前に、相手にインタビューをすると、相手のことがよく分かり、どのような内容をどのように紹介すればよいか、書く内容を想起することができます。



POINT

- ・相手をよく知ることで、生徒が目的にあった文章を書くための視点をもつことができるようになります。
- ・「自分の週末の過ごし方」を伝えるだけでなく、「相手が楽しむことができる週末の過ごし方」を伝えることができるかという視点も踏まえて書くことができるようになります。

授業アイデア例

3. 内容と構成の検討を行い、表現する



4. 内容と構成を再構築し、表現を改善する

□「語や文法事項等を理解して文章を書くことができるようになる」指導の工夫

ICTを活用して英語使用の正確さを高める活動の設定

- (1) エイミーからの質問に対する答えをグループで伝え合い、その様子を1人1台端末で撮影する。
- (2) 伝え合った英文を書く。
- (3) 撮影した映像を見ながら、文法事項等を正しく使えているかななどを協力して確認し、書いた英文を修正する。
- (4) グループを替えて、再度伝え合う。

【生徒の記述例】

I **weekends** soccer.
Soccer **✓** fun.
You soccer like.
Let's play soccer **togethar.**

修正前



I play soccer on weekends.
It is fun.
You likes soccer **too.**
So, let's play it together.

修正後

※下線…インタビューで得られた視点

※赤字…英語使用の誤り

※太字…文と文のつながりを意識した部分

自分の発話を客観的に見ることで、多くの気づきが生まれます。左は【生徒の記述例】です。生徒の英文が改善されていることが分かります。



POINT

- ・表現内容の適切さや英語使用の正確さを高めるために、1人1台端末等を活用し、生徒が自分のパフォーマンスを客観的に振り返る場面を設定します。
- ・生徒が気付くことができなかった共有すべきポイントについては、教師が生徒の活動の様子を観察しながら把握し、全体に伝えるようにします。

6 おわりに

まずは、以下の課題に対する指導改善を図りましょう。

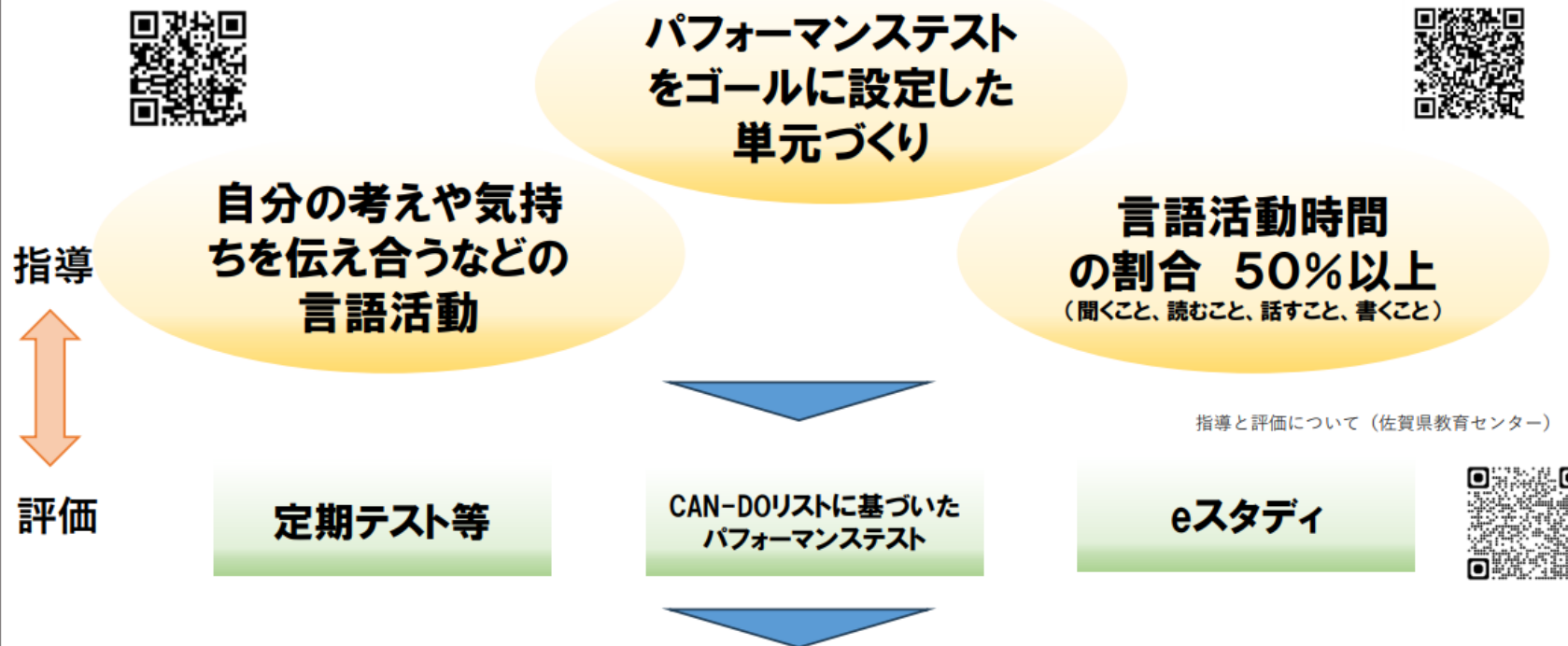
- ◆ まとまりのある文章を読み、その要点を捉えることができるようにする。
- ◆ まとまりのある文章を書くことができるようにする。

生徒が主体的に学び、英語が好き・楽しいと思えるような生き生きとした授業づくりを目指して

言語活動の充実を図る3つのポイント

「話すこと」の指導のポイント（文部科学省）

単元デザイン FIRST STEP（佐賀県教育センター）



生徒の「コミュニケーションを図る資質・能力」の育成

指標

- ・授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合（R5：59.5%⇒R6：80.0%）
- ・CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：30.1%⇒R6：50.0%）

佐賀県教育委員会事務局学校教育課作成

言語活動の充実を図る3つのポイントを踏まえ、生徒の「コミュニケーションを図る資質・能力」の育成を目指しましょう。

全ての教科の授業において、指導改善を図る！

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着
 - ・ 既習の知識・技能を活用し、課題を解決するなどの学習活動の設定
- 自分の考えを表現する学習活動の充実
 - ・ 根拠を明らかにし、これまで学習した事柄、各教科ならではの言葉を使って表現する学習活動の設定
 - ・ 生徒同士が話し合い、考えをよりよいものにしていく学習活動の設定
- より考えを深める発問の工夫
 - ・ 「なぜ」「どうして」などの理由を問う発問
 - ・ 複数の読み取ったことを関連付けて考える発問

本資料で示したものは、佐賀県全体の調査結果です。各学校においても、分析を行い、生徒の実態を踏まえた指導改善を図っていきましょう。